

[計画名称]

とうかい おおたがわ

東海市大田川流域における浸水対策推進プラン

【愛知県東海市】

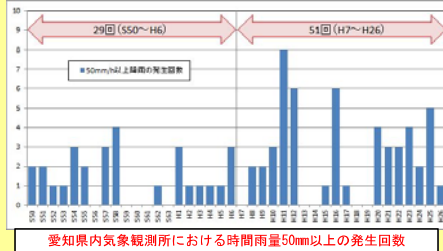
流域の概要

○愛知県東海市の中央部に位置する大田川流域では近年多発する局地的豪雨により、浸水被害が生じている。

○直近では平成21年10月台風18号（86mm/h）により大田川流域において床上浸水37戸、床下浸水51戸の浸水被害が発生した。

○愛知県において時間雨量50mm以上の発生回数は以下のとおりである。

- ・S50～H6の20年間での発生回数：29回
 - ・H7～H26の20年間での発生回数：51回
- 時間雨量50mm以上の発生回数が増加傾向**



○市街化の進展により流出量が増加

- ・流域内の市街化率
- S46年：22%→H3年：48%→H21年：58%

○河川・下水の法定計画

- ・河川(整備計画 W=1/5)、下水道(雨水:事業計画 W=1/5)

⇒頻発する局地的豪雨に対して早急な治水対策が急務

○浸水対策推進プランで対象とする降雨 平成21年10月台風18号 最大時間雨量86mm

浸水被害の主な要因

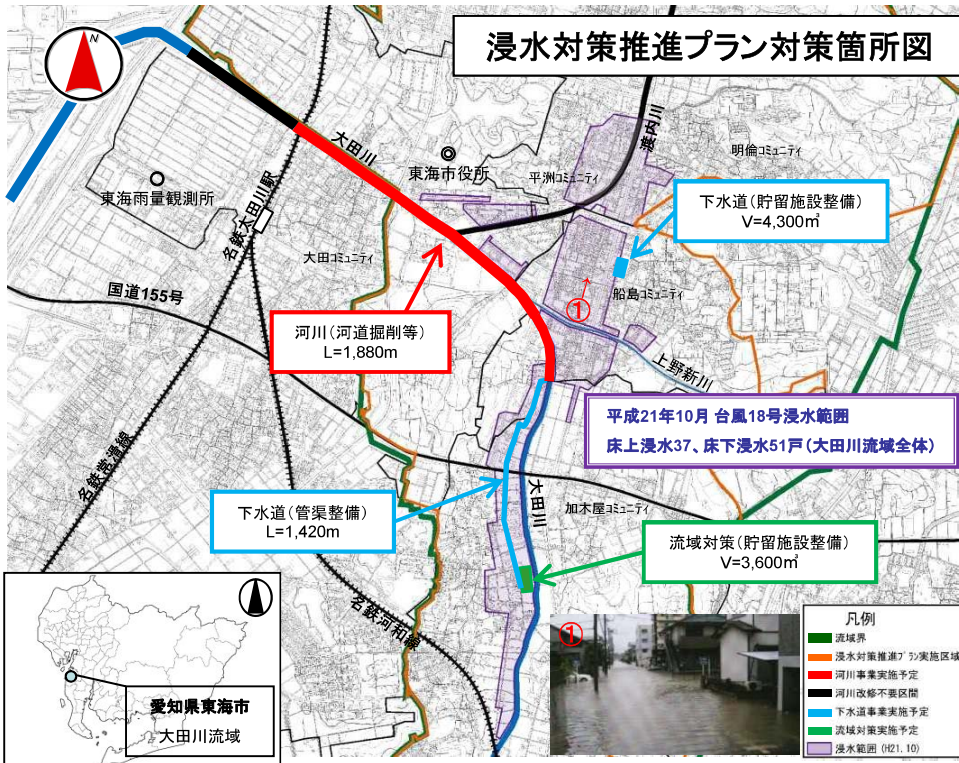
- 流域内の市街化の進展など土地利用の変化により、雨水が河川へ流れ込みやすくなり、流域から河川への雨水の流出量が増加。
 - 流域内の市街地は周辺と比べ地盤が低く、計画を越える規模の降雨においては地盤の低い箇所の排水が行えず、内水被害が発生。
- ⇒流域の関係機関が一体となりハード・ソフトの治水対策を効果的に組み合わせ推進する必要がある**

大田川流域の総合的な治水対策について、愛知県・東海市・地域住民・地元民間企業等からなる「大田川流域浸水対策協議会」で検討し、関係機関が対策を実施

大田川流域浸水対策協議会

組織	部 局
県関係	愛知県知多建設事務所河川港湾整備課、都市施設整備課
市関係	東海市都市建設部土木課、水道部下水道課
住民	メイリン、ヘイシュウ、オオタ、フナジマ、カギヤ
ため池管理団体	東海市明倫コミュニティ、平洲コミュニティ、大田コミュニティ、船島コミュニティ、加木屋コミュニティ
企業	ヒメジマ、姫島町内会、加木屋水利協同組合、新日鐵住金(株)名古屋製鐵所、知多メディアネットワーク(株)

浸水対策推進プラン対策箇所図



取組内容

取組内容	効果	事業主体
法定計画等に基づく河川・下水道の整備による浸水対策	効果	事業主体
・河川事業(二級河川大田川水系河川整備計画) 河道掘削等	安全に雨水を流下させる	愛知県
・下水道事業(東海市公共下水道事業計画) 姫島公園調整池、雨水管渠整備	地表面の水を速やかに排除する	東海市
分散型貯留浸透施設等による流域対策	効果	事業主体
・流域貯留施設の整備(木之下地区調整池)	地表面の水を速やかに排除する	東海市
・市ため池管理団体が協定を締結し、大雨時に水位調整を実施	ソフト対策による被害軽減	東海市、ため池管理団体
危険情報周知の対策	効果	事業主体
・ホームページ・CATVを利用した雨量、河川水位情報、河川カメラの画像等を提供	ソフト対策による被害軽減	東海市
・緊急速報メールにより雨量や水位等の情報を配信		東海市
・危険箇所を記したハザードマップを全戸に配布		東海市
・浸水実績表示板及び水量水板を設置		東海市
・姫島公園調整池に水位計を設置		東海市
・河川監視カメラ・サイレンを設置(富木島町地区)	東海市	
地域における水防活動強化の取組	効果	事業主体
・地域住民が主体となり、地域コミュニティ毎に水防訓練を実施(防災訓練は実施中)	ソフト対策による被害軽減	住民(コミュニティ)
まちづくりや住民(団体)、民間企業等における水害対策への取組	効果	事業主体
・土嚢の無料配布を実施	ソフト対策による被害軽減	東海市
・市土木課管理の道路・水路の清掃活動を実施		住民(コミュニティ)
・東海市内の住宅などを対象に、雨水貯留浸透施設の設置に際して補助		東海市
・浸水区域内における浸水対策改修等工事を行う者に対して補助		東海市
・浸水地区における建築確認相談時に嵩上げ指導を実施		東海市
・コミュニティが主体となった避難行動計画の策定		住民(コミュニティ)
・出水期前に道路側溝、水路の合同点検を実施		東海市
・防災FM放送を利用した浸水危険情報の発信を実施		東海市
・水防訓練等へ地元企業が参加・協力	住民(コミュニティ)	

取組の効果

対象とする降雨に対して、床上・床下浸水被害の低減及び浸水エリアの縮小を図る。